

関係者各位

世田谷区立経堂小学校
校長 青鹿 和裕

次年度（令和8年度）に向けた改善方策

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

令和7年度の学校関係者評価委員会より報告書をいただきました。

令和7年度の自校での取組についての自己評価と学校関係者評価委員会の方々からのご提言、世田谷区の教育施策を受けて、次年度に向けての本校の重点目標を検討し、「次年度（令和8年度）に向けた改善方策」を作成いたしました。子どもたちの育成のために、教職員が一丸となって令和8年度も取り組んでまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 学校経営の基本経営ビジョン

経堂小学校が

- 子どもにとって・・・「日々通うことが楽しい学校」であること
- 教員にとっても・・・「勤務することが楽しい学校」であること
- 保護者、地域の方々にとって・・・「安心して子どもたちを託せる学校」であること

変わらず大事にしていきたい伝統となる「経堂小学生」のよさを伸ばしつつ、これからの新たな時代を創造するために必要な力を様々な活動を通して育成していきたいと考える。

- 子どもたちが日々の活動の中での発見や感動に自ら気付く
- 多くの仲間と触れ合う中で様々な違いを認め合い、自分や友達への理解を深め、自己を成長させる
- 自分の個性を生かして活動し学校生活をおおいに楽しむ
- 自分の思い、願いの実現に向けて課題を解決しながら、自らの成長を実感する

自らが課題に向き合い、判断して行動し、自分らしい生き方を実現するための素地として「自分づくり」をすることが学校の使命である。

そのために、全教職員で共有したキャッチフレーズを「自分で自分を広げる子ども」と設定し、学校全体で教育活動を推進する。

キャッチフレーズ ***自分で自分を広げる***

2. 令和8年度の本校の教育目標

- よく考える子
- 助け合う子
- 健康な子

3. 令和8年度の重点目標

子どもたち自ら課題を見付けて、改善しながら実践を進め、自ら納得できる解決につながる学びや粘り強く取り組む学びを身に付けていくことが、自分らしい生き方を実現していくための「自分づくり」につながる。そのために、全教育活動を通して、「自分で自分を広げる」を全校共有テーマとし、自己肯定感を育むことを目指し、重点目標を以下のように設定する。

●「自他を大切にすることと共に、自己肯定感の醸成」

子どもを認め、思いを聞く指導を基盤に、友達同士の関わり合いを大事にすることや話し合い活動を取り入れて、集団での意思決定につなげる。その中で自分のよさを実感し、友達のよさを見付け、互いが伸びていく子どもを育てる。

●「課題を解決する力の育成」

「探究的な学び」を充実させ、自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり、整理分析したりして自分の考えをまとめ、表現できる子どもを育てる。一人では成し得なかったより質の高い学びにつなげる「学び合う活動」、学びの過程を構築していく「学びを振り返る活動」を特に充実する。

●「やわらかい心」の育成

自己の目標（ゴールイメージ）に向けて、活動する中で自分のよさや可能性を感じて、諦めずに粘り強く取り組むことや互いに学び合い成長し高め合う。子どものやりたいという意欲を大切に、楽しさや喜びにつなげることを通して、健やかな心や体を自ら耕す子どもを育てる。

（令和8年度 みどりの学び舎重点取組⇒やわらかい心の育成）

やわらかい心を非認知能力ととらえ、その例として、自分のよさや可能性を感じる心、人を認める心、役に立ちたい心、しなやかな心、粘り強い心、やり続ける心、共感する心、協調する心、創造する心などが挙げられる。

4. 重点目標の基本的な考え方

●「自他を大切にすることと共に、自己肯定感の醸成」

- 「自分づくり」につながる資質・能力を育む
 - ・自分の役割を果たして活動することを通して、人や社会に関わり、自分らしい生き方を実現していくために、発達の段階に応じた意図的な指導に取り組み、自分づくりをする。
 - ・様々な機会を通して、自らの学習状況や活動を見通し、振り返りながら、自分のよさに気づき、

積み重ね、自分の成長を実感する。

○互いを認め、共に学び、共に育つ教育の推進

- ・すべての人に対して、あらゆる偏見や差別のない学校・学年・学級経営の充実を図り、自分や友達によさを大切にし、互いを高め合おうとする、豊かな人間性や社会性をもつ子どもを育成する。
- ・子ども一人一人の特性や課題、個々の教育的ニーズの理解に努め、その子どもに応じてSC、すまいるルーム、関係諸機関などの連携を取りながら校内体制を整え、個に応じた指導を充実させる。
- ・教員と子どもたち、子どもたち同士、対話的に関わることを通し、子どもの変容や成長を価値付けながら自己肯定感を高め、さらなる意欲につなげる。

●「課題を解決する力の育成」

○多様化された質の高い教育の推進

- ・探究的な学びを日常的に充実させ、自ら課題を設定し、どのように学ぶのか見通しをもち、課題解決に向けての自分なりの学習プロセスをつくっていく。また、仲間と共に学習することが、自分一人で学ぶことよりも、より質の高いレベルでの学習課題の解決につながることを実感できるよう展開する。
- ・ICTの積極的な活用により、子どもの情報活用能力の向上を図るとともに、「探究的な学び」を実現するためにも、学び合いや振り返り等でも工夫した学習指導を進め、学習効果を高める。

○学校を取り巻く地域社会と協働した教育の推進

- ・学校の教育活動を支援する「学校運営協議会」の仕組みを円滑に推進できるように整理し、委員メンバーや学校支援コーディネーターを介して、地域人材や施設を活用し教育活動の充実を図り、「地域とともに子どもたちを育てる」「地域が参画する学校づくり」を目指す。
- ・地域運営学校として、学校、家庭、地域の皆様とビジョン（ゴールイメージ）を共有し、それぞれがそれぞれの立場で責任をもって子どもたちの健全育成に取り組んでいく。

●「やわらかい心」の育成

○健やかな心と体づくり

- ・日常的に運動に親しむとともに、自らすすんで運動に取り組む姿勢を育て、自らの健康について考え、実践していこうとする子どもを育てる。
- ・栄養士や養護教諭を中心とした食育や保健・健康指導を充実させ、子どもの健康に関する意識を高める。
- ・関わり合う中で、自他の考えを認め、自分やみんなが楽しく生活できるような方法を実践する中で見つけ出していく。

○非認知能力の育成

- ・心の土台となるものであり、粘り強さから深く考えたり、工夫したり、創造したりする行動につながる。本校における探究的な学びの質の高まりにもつながる。その非認知能力が向上することで、相乗効果として認知能力が向上する。非認知能力と認知能力は絡み合うように伸びる。

○学校における働き方改革の推進

- ・創造的な余白の時間を生み出し、教員の質の高い学びと持続可能な教育活動を進める学校の実現に尽くす。
- ・学年や専科といった広い枠組みで組織を見つめ直し、学年指導チームとしての運営力・指導力を高める。
- ・学校重点目標をうけた学校運営の各分掌組織編制を工夫し、学校としての組織目標の達成に向けた協働体制を向上させる。
- ・教育データやデジタル技術の活用を図り、様々な校務を効率化し情報共有を充実させることで、校務負担の削減とともに学習や指導の効果を高めていく。